

# 地方経済情報 Weekly No.393

## 栗産地としての更なる飛躍に向けて ～栗の自動収穫・運搬ロボットの開発～

### 1. 栗の自動収穫・運搬ロボットの研究開発

熊本県の農産品の中でも、“栗”の収穫量は全国2位を誇り、中山間地の地域経済を支える重要な作物となっています(図表1)。しかしながら、生産現場に目を向けると、生産農家の高齢化に伴う担い手不足が見られ、作業負担の軽減が急務となっています。それに呼応して、2022年度から熊本県立大学の松添教授が研究代表者となり、熊本高等専門学校、(株)末松電子製作所(八代市)、山江村未来塾100人委員会「やまえ栗ブランド部会」、当研究所でコンソーシアムを組成し、栗の自動収穫・運搬ロボットの研究開発を行っています※1。

### 2. 試作機による栗園での収穫試験を実施

2023年度から、研究開始より培ってきた成果をもとに組み上げた試作機を使用し、実際に栗園での収穫試験に着手しました。

9月半ばに実施した熊本県農業研究センター球磨農業研究所の栗園での収穫試験では、鹿児島大学や津山工業高等専門学校の農業機械、ロボット工学を専門とする先生方をお招きし、試作機に対する意見交換を行いました(下記写真)。

### 3. ロボットの社会実装により熊本の栗を盛り立てる

生産者が持続的に作物を生産していくためには、スマート農業など新たな技術を活用することにより、農作業を省力化・自動化し、生産効率を向上させることが有効です。

当研究所は本研究開発を通じ、栗の自動収穫ロボットの2025年度以降の社会実装につなげ、熊本の日本有数の栗産地としての更なる飛躍を支援します。

【栗の収穫ロボットの開発 HP (熊本県立大学)】

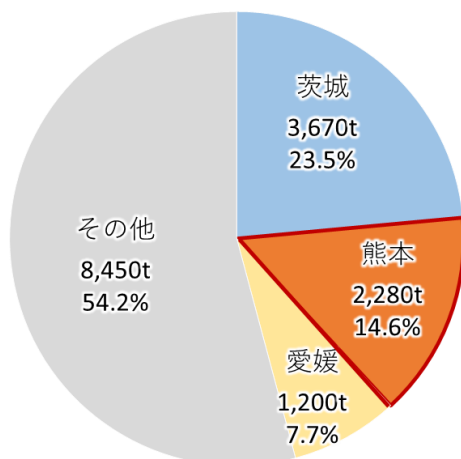
<https://kuri-robo.com/>

栗の収穫ロボットの開発



※1 本研究開発は農研機構生研支援センター「戦略的スマート農業技術等の開発・改良(研究課題名: 栗園における労働軽減のための収穫・運搬ロボットの開発)」の支援により実施(2022年度～2024年度)

【図表1】令和4年産栗の収穫量



(資料) 農林水産省 「作況調査(果樹)」(令和4年産)

栗収穫ロボットによる収穫試験の様子



(資料) 熊本県立大学提供

事業連携部 主任研究員 内藤 裕